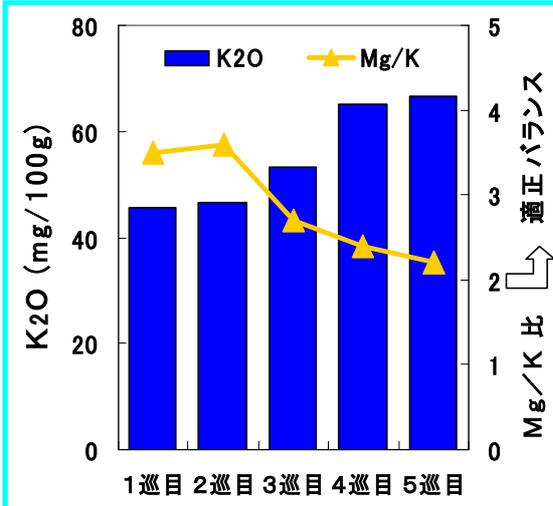


リン酸、カリ蓄積ほ場における ブロッコリーセル苗の全量基肥施肥法

ブロッコリー産地では、化成肥料や堆きゅう肥の多投入によって、リン酸・カリが多量に蓄積しているほ場が増加しています。そこで、窒素を主体とする肥効調節型肥料によるセル苗の全量基肥法を実施しました。この方法により、窒素を50%削減しても慣行栽培と同等の収量・品質が得られ、ほ場に蓄積するリン酸、カリも減少できました。



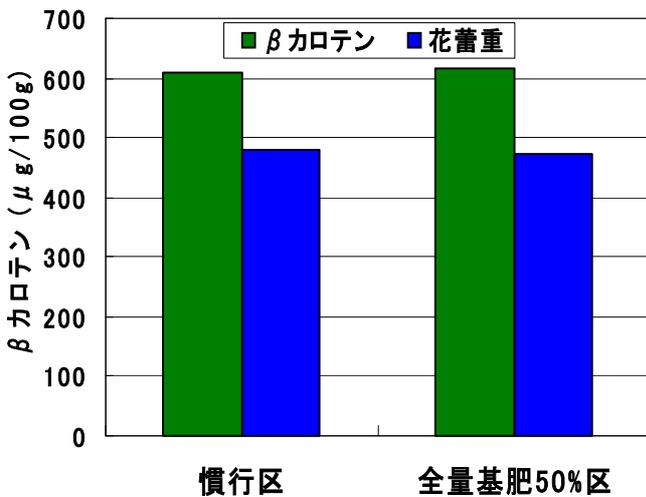
普通畑におけるカリ及びMg/K比の推移

5年で県内を1巡する土壌調査(25年間の推移)の結果、カリは蓄積し、Mg/K比(当量比2以下で不適正)の低下傾向が認められた。



慣行区 全量基肥50%区
慣行区と全量基肥法によるセル育苗の状態

慣行区:市販培土(N, P₂O₅, K₂Oは各0.2, 0.7, 0.2g/L)
全量基肥50%区:市販培土と被覆燐硝安(24:1:1の100日シグモイド)を混和。セル内に6.6g施肥すると、N, P₂O₅, K₂Oは各9, 0.4, 0.4kg/10aに相当。
育苗調査:全量基肥区の生育・発根は良好。



セル苗全量基肥法がブロッコリー可食部のβカロテン含量に及ぼす影響

実証圃場の施肥条件

慣行区:
基肥窒素14kg/10a、
追肥4kg/10a、 計18kg施肥
全量基肥50%区:
基肥窒素9kg/10a、
追肥なし、 計9kg施肥
作付け前土壌のリン・カリ含量
リン酸95mg/100g、カリ73mg/100g
収穫調査
窒素を50%削減した全量基肥区では、βカロテン及び花蕾重が慣行区と同等。